

カロンゴ日記 ～伊藤編～

Part.3 2015年5月29日

こんにちは。こちらは4月に入ってすぐに雨季に入り、毎日夕暮れにスコールがあります。日中は30度を超えています、夜は20度まで下がることもあり、羽織るものが必要になってきました。

毎日2L以上飲んでいたお茶も、今は全く減りません。

カロンゴのスコールは雷と激しい風とともに突然やって来て、バケツをひっくり返したような雨を集中的に降らせ、1時間ほどでピタッと止みます。カロンゴ病院は外に一旦出ないと他の部署に行けないため、雨の時は様々な仕事がストップします。勿論手術室へも行けないため、手術ですら一旦ストップします。

現地の方は、雲の流れや気温の低下から雨が降る頃合いが分かるらしいのですが、まだ慣れていない私は薬剤部に薬を取りに出かけたまま、スコールに襲われ帰れなくなりました。あっという間に川ができ、今までに見たことのないような光景でした。いつもはくっきりと見える美しいカロンゴヒルも雨で光り、雪が積もったように見え、とても幻想的でした。



この雨季の4月から5月にかけては、マンゴーのおいしい季節です。マンゴーの木から転落し骨折した子供達が、いま外科病棟に沢山入院しています。外科病棟の前にも大きなマンゴーの木があり、手の届く範囲はすでに食べられてしまっています。外科病棟の子供達にマンゴーを取って欲しいと頼まれては、石を投げたいしてトライしてみますが、上手く取れるはずもありません。しばらくマンゴーと格闘していると、いつも誰かが助けてくれます。この日は、入院中の少年が長い棒を持って手伝いに来てくれました。患者さんが持っている杖を手際よく紐でつなぎ合わせて、長い棒を作っていました。さすがウガンダの子供達です。

写真のように少年が棒で一突きすると、マンゴーが落ちてきます。棒を貸してもらって同じように取ろうとしても全く当たらず、皆に笑われてしまいます。子供達を病棟から連れ出し、ここでおやつとしてマンゴーを取って食べるのが日課になっています。



もう一つこの季節の名物といえば、“シロアリ”です。夜中に大雨の降った朝、リビングの床に茶色いものが散らばっていました。何だろうと思って見てみると、羽の取れたアリが落ちています。びっくりして外へ出ると、一面に大量の羽とアリの体が落ちています。現地の人たちは、皆たらいを持って蟻を集めていました。こちらの人にとってシロアリは大切な蛋白源で、雨が降った後に大量に発生するため、この時期は誰もが食べるのを楽しみにしているようです。



写真のようにかき混ぜながら羽を取り除いている様子を見ると、絶対に食べられないと思いましたが、現地のスタッフに勧められて煮たシロアリを食べてみると、干しエビのように香ばしく、噛めば噛むほど味のある一品でした。大好きなエビを思い浮かべながら、目をつむって頂きました。

雨季は大地も潤い、作物が良く育ちます。この時期“食”を楽しみたいと思います。